

コロナ禍や物価高騰などから命と暮らしを守る「市民が真ん中」の施策を展開

「せとうちみなとマルシェ」を拠点に、「瀬戸内クロスポイント構想」の実現と地域経済の再生を

「アフター・コロナ」を見据えては、率先して困難な課題と向き合い、変化を恐れず、常に挑戦し続けるまちづくりを

今治市においては、2021年2月の市長選で当選した徳永繁樹市長による市政第1ステージが、折り返し点を迎え、2回目となる本格予算案が3月定例会市議会に上程された。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いは、5月から5類に引き下げられ、コロナ対応は新局面に入る。ただし、新たな変異株による感染拡大が懸念される上、円安等による物価高騰も暮らしや経済活動に影響を落とす。取り巻く環境はまだまだ厳しいものがあるが、徳永市長は「市民が真ん中」の施策を展開するとともに、地域経済の再生に向けた取組を本格化させている。そこで、徳永市長に、今後の新型コロナウイルスへの対応や物価高騰対策、相次いだビッグイベントの経済波及効果、2023年を「観光再始動の年」と位置付けた取組、誕生した「今治里山スタジアム」の活用などについて語っていただいた。

**5月から5類感染症に移行するのを受け、
これまで以上に医師会等と連携した対応を**

— 新型コロナウイルスの感染第8波はピークアウトしたものの、米国で猛威を振るう変異株等による感染再拡大も懸念されます。その一方、国は5月から、感染症法上の扱いを2類相当から5類に引き下げる方針を示しました。ワクチン接種の公費負担などが段階的に変

更される見通しです。まだ未定のことが多いものの、このコロナを巡る大きな局面転換を受けては、市民の命と健康を守るため、基本的にどう対応していけますか。

徳永 新型コロナウイルスの感染第8波では、年末年始にかけて感染者数のピークを迎えたことから、医療が非常にひっ迫するという状況が生まれました。県は昨年12月15日から「医療ひっ迫警戒宣言」を发出し、早期受診が必要な高齢者や小さな子どもの医療アクセスを優先するため、重症化リスクが低く、症状が軽い場合の医療機関の適正受診などを呼び掛けました。しかしながら、感染力が非常に強いオミクロン株の特性により、高齢者や基礎疾患のある方にも感染が広がり、入院が必要な方が急



市政第1ステージの折り返し点を迎えた
徳永 繁樹 今治市長


増したことから、病床使用率がピーク時には80%を超えるなど、危機的な状況が続きました。本市でも同様の状況となりましたが、感染第7波の際に構築した自宅療養者の医療支援の制度を活用し、今治市医師会の全面協力をいただきながら、年末年始の発熱外来の追加開設や陽性者の搬送を行うなど、今治市ならではの市民の皆さま

に寄り添った対応をすることができました。今治圏域の1週間当たりの累計感染者数は、感染第8波のピークであった年始には2,000人程度でしたが、2月上旬には5分の1の400人程度となり、その後も減少傾向が続いています。国は1月27日に新型コロナウイルス感染症法上の位置づけについて、

「オミクロン株とは大きく病原性が異なる変異株の出現」などの特段の事情が生じない限り、5月8日から5類感染症に変更するとの方針を決定しました。5類感染症になることにより、外出自粛や就業制限が適用外になり、診療体制については、一般医療機関で対応が可能となる一方で、治療費に自己負担が生じた

船主と共に伸びる



 今治造船株式会社

り、無料検査を受ける機会が無くなるなど、市民の負担増につながる恐れもあります。国は5類への移行後、患者が幅広い医療機関で受診できるように、医療提供体制を見直していくとともに、医療費の扱いについては、患者に急激な負担増が生じないように、期限を区切って公費負担を継続していく方針を示しています。具体的などのような公費負担になるのか、詳細は未だ示されていません。

ワクチン接種につきましては、「65歳以上の方や基礎疾患のある方等は、2023年の春夏（5月～8月）・秋冬（9月～12月）の2回、それ以外の方は秋冬の1回」いずれも無料で接種できるよう調整されています。今治市においては、国の方針決定に基づき、ワクチン接種を希望される方が速やかに接種できるように、当初予算におきまして、掛かる費用を確保しているところですが、

このように、国の方針が決定していない状況ではありますが、今治市としては、いつどのような方

針が示されても遅れることなく、適切な対応をしなければならぬと考えています。

また、5月8日から5類感染症に移行しても、新型コロナウイルス感染症がなくなるわけではありませぬ。新型コロナウイルスは変異し続けており、特に昨年12月頃からアメリカで感染が拡大している変異株「XBB.1.5」の感染拡大が心配される場所です。

「XBB.1.5」は、オミクロン株のうち、昨年春ごろから広がった「BA.2」の2つのタイプが組み合わさった変異ウイルス「XBB」に、さらに変異が加わったものです。

WHOは1月25日、「XBB.1.5」のリスク評価を更新して公表し、ウイルスの広がりやすさについて、アメリカやイギリス、ヨーロッパ各国のデータでは、ほかのオミクロン株の変異ウイルスより広がりやすく、過去の感染やワクチン接種で得た免疫から逃れる性質は、これまでの変異ウイルスで最も強いとしています。

このように感染再拡大の懸念がぬぐえず、感染第9波の到来も心配される状況であります。5類移行後は国、県の支援が縮小されていくことが予想され、その中で市が果たしていく役割はますます大きくなるものと考えています。

感染状況はもちろんのこと、国、県の対策や医療機関の状況も注視

2023年を「観光再始動の年」と位置付け、反転攻勢で巻き返しを

—— 国は水際対策の大幅緩和や旅行需要喚起策の実施など、経済を回す方向に大きく舵を切りました。観光や外食などに復活の兆しが見え始めましたが、この変化を市長としてどう体感しておられますか。また、再生を加速させるため、どう取り組まれますか。

徳永 昨年10月、国は水際対策緩和施策を打つとともに、国内経済の立て直しを図るため、全国旅行支援など様々な消費喚起政策を打ち出しました。

私たちが地方自治体においても、

しながら、制度の狭間で支援が受けられない状況が生じないように、スピード感と柔軟さを持つて躊躇なく対策を打ち出していく必要があります。これまで以上に今治市医師会や今治保健所、関係機関と連携しながら、市民の命と健康を守るため全力で対応してまいりたいと考えています。

こうした施策に乗り遅れないよう対策を講じる方針に転じ、地域経済のいち早い復興を目指そうとしましたが、この勢いに水を差すように新型コロナウイルスの感染第8波に入り、まさに「ウイズ・コロナ」における経済対策を講じていく必要があります。

また、長引くロシアによるウクライナ侵略の煽りに加えて、現在は落ち着きを取り戻しましたが、為替相場における円の下落の影響を受け、原油や食料の原材料のほとんどを輸入で賄っている我が国

では、物価が急騰しました。特に市民の生活に欠かせないライフラインの一つである電気・ガス料金や日々の食料品の値上がりは、消費喚起を促す前に、市民生活を影を落とすことになりかねません。

私たち行政が、第一に対応しなければならぬのは、この物価高騰から、市民の皆さんが安心して暮らせるよう生活を守ることです。そこで、先の12月定例市議会では、国の支援を受けながら、電気・ガス・食料品等の価格高騰による影響が特に大きい低所得世帯

の生活を支援するための事業費のほか、子育て世帯や重度障がい児養育世帯に対する応援金を予算計上し、市議会にもご承認いただきました。さらに、クリーニング業や理容業等を営む生活衛生事業者、畜産農家、地場産業である今治タオル関連事業者、大島石、菊間瓦といった伝統産業の皆さんに対しては、原油、原材料等の価格高騰に対応するための支援策を講じるなど、市内の様々な事業者の皆さんに可能な限り支援が行き届

くよう配慮するとともに、市民生活のご負担を少しでも軽減できるよう「市民が真ん中」の施策を展開してきました。

そうした中、新しい年を迎え、万全な感染症対策のもとで成人式を開催し、これからの今治市の将来を担う新成人の皆さんの瞳の輝き、溢れる笑顔に、ずっとこのま

ちで暮らしていきたいと思ってもらえる今治市に変えていかなければならないと、改めて決意したところですが、一方、観光産業に目を向けると、国の水際対策緩和によってインバウンドは徐々に回復の兆しをみせており、少しずつ新型コロナウイルスが感染拡大する前の2019年頃の数字に戻りつつありますが、この回復の波は、まだ私たち地方都市まではしっかりと届いていません。ただ、この波が届くのを待っている、観光振興に乗り遅れる恐れがあることから、危機感を持って、2023年を「観光再始動の年」と位置付け、反転攻勢で巻き返しを急ぎたいと思っています。

一般社団法人 今治市医師会

会長 木本 眞

事務局:〒794-0026 愛媛県今治市別宮町7丁目1番40号



f i t a N e w

岡田印刷株式会社

〒790-0012 愛媛県松山市湊町7-1-8
☎(089) 941-9111 FAX(089) 932-1199
<http://www.prinart.co.jp/>

併せて、国内需要を取りこぼさないため、「ウイズ・コロナ」に対応した新しい観光の在り方にも注視し、観光消費の団体旅行から少人数旅行へのシフトチェンジに即した施策に取り組んでいきたいと思っています。

主な取組としては、2022年度事業で制作している「長期滞在型ワーケーションの今治ガイドブック」を活用し、県外企業に対しアプローチするとともに、サイク

「みなとフェスティバル100」などのイベントで賑わいが戻り、今後の交流人口の拡大に

—— 地域経済の再生という点では、今治港開港100周年記念イベントから「今治クリテリウム」「サイクリングしまなみ2022」、「せとうちみなとマルシエ」、「こどもが真ん中フェスタ」と、久しぶりのビッグイベントに今治が賑わいました。一連のイベントの手応え、成果は。また、これらをどう継続的な波及効果に結び付けていきますか。

リングと文化・歴史・アクティビティを組み合わせた新しい体験プログラムを提供し、一人でも多くの交流人口の拡大に努めていきます。

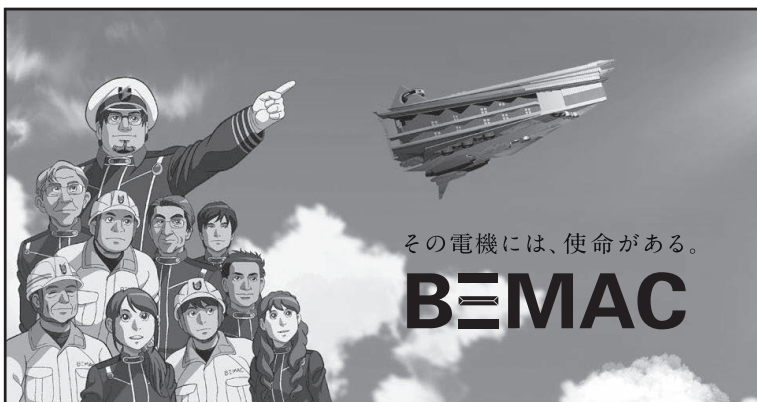
ワーケーションを軸とした長期滞在型観光パッケージの需要は、先に述べたインバウンド誘致にもつながり、また、地域の住民の皆さんと触れ合う時間を創出することで、将来の移住希望者の増加に寄与するものと考えています。

徳永 3年振りに開催された市民のまつり「おんまく」を皮切りに、秋には「みなとフェスティバル100」をはじめとする大規模イベントを実施することができました。私としては、一連のイベントの手応えをしっかりと感じることでできましたし、とりわけ、各イベントの拠点を今治港とした点は、大変意義があったと思っています。

その証しとして、「みなとフェスティバル100」では、2日間で約25万人もの人で溢れました。特にブルーインパルスの展示飛行では、子どもからお年寄りまでの多くの方が青空を見上げて目を輝かせ、拍手をしていた光景を目の当たりにすることができ、あの瞬間、私の全身には熱く込み上げてくるものがありました。

また、4年ぶりの開催となった「サイクリングしまなみ2022」では、国内外の約6,400人の皆さんが参加し、最高の秋晴れの中、今治市が世界に誇るサイクリングロード「しまなみ海道」の景観の素晴らしさはもちろん、潮風の中を自転車で駆け抜ける爽快感を味わっていただきました。

国内からは、46都道府県から、また国外からは33の国と地域から参加があり、参加者アンケートの結果によると、大会全般について「大変満足」、「やや満足」と回答された方が、全体の90%を超えました。「今後、しまなみ海道でサイクリングをしたい」という問い



BEMAC 株式会社

今治本社・みらい工場

愛媛県今治市野間甲 105 番地

Tel : 0898-25-8282

www.bemac-jp.com



に対しても、参加者の98%以上の方から「サイクリングをしたい」と回答いただいております、多くの方々に「しまなみ海道」の魅力が伝わったと思います。

「しまなみ海道」は、今治市における唯一無二の観光コンテンツであり、今回の「サイクリングしまなみ」が市の観光再始動の大きな契機になると確信しています。

大会の前日には、今治商工会議所青年部の有志の皆さんが主体となった「第一回今治クリテリウム」に、67名の自転車プロロードレーサーをお迎えし、今治港みなと交流センター「はーばりー」周辺道路を舞台に華々しく開催されました。観客動員は約1万3,000人、経済波及効果も約1億1,800万円と推計されています（観客動員、経済波及効果とも今治クリテリウム実行委員会が算出）。

四国初開催ということもあり、プロロードレーサーの驚異的なスピード、テクニクに多くの観客が魅了され、同時に今治港を核とした中心市街地周辺に、かつての「港町いまばり」の賑わいが溢れた大会となりました。

そして、11月からは、「せとうちみなとマルシェ」が本格的にオープンし、それ以降、毎月、第2、第4日曜日に開催され、毎回1万人を超える来場者で活気に満ち溢れている

多くの市民らで賑わう
せとうちみなとマルシェ

ます。このマルシェも市民の有志の皆さんが、今治港にかつての賑わいを取り戻し、もう一度今治の中心市街地を再生させたいという熱い想いで開催にこぎ着けたものです。

冬場の寒い中にもかかわらず、主催者の熱意が市民の皆さんにも伝わったかのように、毎回大勢の方が笑顔で買い物に来てくださり、まさに新しい今治港の姿を体現しているように感じています。「せとうちみなとマルシェ」は、今後も定期開催していきますが、市民の皆さんだけでなく、市外、県外、ひいては国外からの観光客を誘致できるよう取組を進めていきます。このマルシェを一つの大きな拠点と捉え、今治市への交流人口の拡大を図ってまいりたいと考えています。

また、マルシェのオープニングに合わせて、子どもたちに商店街を見て回る楽しさを知ってもらい、地元今治に愛着を持ってもらうとともに、地域の人たちと一緒に子育て世帯を応援してい

引き続きご愛顧のほどお願い申し上げます。



しまなみピクニック
Shimanami Picnic

公益社団法人今治地方観光協会

〒794-0013 今治市片原町一丁目100番地3
TEL: 0898-22-0909 FAX: 0898-22-0929

きたいとの想いから、今治の商いを支えてきた今治商店街を舞台に「子どもが真ん中フェスタ」を初開催しました。

フェスタでは、女子バスケットボールチーム「今治オレンジブロッサム」によるミニバスケット体験、昆虫標本の展示、ミニ新幹線、ミニドローン体験、商店街店舗によるものづくり体験など、バラエティ溢れるプログラムが実施されました。子どもと保護者が笑顔で集う中、隣接するブースではネウボラ政策課による子育て相談や支援情報の発信を行うなど、「遊び、学び、相談できる場」をテーマとした取組が行われ、港と商店街が一体となって、中心市街地に子どもたちの笑顔があふれる1日となり、「今治版ネウボラ」の方向性を示すものともなりました。

その中でも地元高校生が自ら企画運営するブースは、様々なアイデアで会場を盛り上げてくれて、若者の力を大変心強く感じました。彼らが、このようなイベントに参加し、小さい子どもと触れ合

うとともに、地域の人たちとのつながりを持つことは、今治というまちや地域のコミュニティに対してより関心を向けてもらうきっかけづくりになったのではないかと

「海賊船エリア」等で構成され、365日、賑わいを創出する「今治里山スタジアム」が誕生

今年1月、待望のFC今治の新スタジアムが完成しました。このスタジアムの特徴や今後の活用、スポーツを活かしたまちづくり、FC今治のステージアツプへの期待などをお願いします。

徳永 1月29日、満を持してFC今治のホームスタジアム「今治里山スタジアム」がオープンし、5,000人の皆さんをお迎えして柿落しイベントが盛大に開催されました。

「今治里山スタジアム」は、365日、賑わいを創出することをコンセプトとしています。スタジアム自体を、かつて瀬戸内海で活躍した「村上海賊」の海賊船に見立てた『海賊船エリア』、障がい

思っています。引き続き、多くの方のお力をいただきながら、地域ぐるみで子どもを支え、地域に根差した子育て支援を実現していきます。

者施設とカフェを備え、老若男女の多様な人々の出会いが生まれる拠点となる『里山ジャルダンエリア』、自然の中に訪れた人たちの笑い声が聞こえる心豊かな広場『里山プラザエリア』、里山スタジアムへの入口『里山プロムナードエリア』、ドッグランが整備される『里山スクエアエリア』の5つのエリアで構成され、どなたでも楽しむことができるインクルーシブ社会の実現を目指しています。

この「今治里山スタジアム」を山の拠点、先ほどご紹介した「せとうちみなとマルシェ」により再生を図る今治港を海の拠点とし、互いを線で結んで広く面的な展開を進めることによって、賑わいの

海の恵みを届け続けて おかげさまで



伯方の塩は、輸入天日塩田塩を日本の海水で溶かして原料としています。伯方の塩は伯方塩業株式会社の登録商標です。



相乗効果を図っていきたいと考えています。2023年度には、まず山の拠点の賑わいを創出するため、FC今治やイオンモール今治新都市など、賑わいの核となる皆さんとの連携を強化し、FC今治

のホーム戦以外でも多くの方々が訪れる持続可能な賑わいづくりに取り組んでいきます。

今後、今治港や今治駅といった交通拠点と、この里山スタジアムをどう繋いでいくかが大きな課題

の一つであり、公共交通機関である市内循環バス、サイクリングなど様々な角度から、環境に配慮した交通手段を取り入れ、市街地と里山を結ぶ強固な線を描いていきたいと考えています。

また、スタジアムを核として、併設している市の施設「今治スポーツパーク」を活用し、今治サッカーの聖地を構築するとともに、ソフテニスなどとコラボしたスポーツでの賑わいづくりにも取り組めます。そして、インクルーシブ社会を見据え、障がいの有無に関

らず、老若男女どなたでも楽しむことができる「e・SPORTS」を普及していくため、その拠点整備についても検討していきます。

「今治里山スタジアム」のオープンを機に、FC今治がJ2、J1へと飛躍していくことにより、このスタジアムも更なる進化を遂げていくことができると思っています。まず、FC今治の飛躍は、今治市民の大きな盛り上がりにつながっていくものと期待しています。

市民とともに歩むプロスポーツの大きな効果は、それが核となつて様々な人々を巻き込み、大きなうねりとなることによつて、確固たる「シビックプライド」を構築していくことだと思えます。その「シビックプライド」を活用したまちづくりは、市外に在住される方へも波及し、移住、定住地を選択するときの一つの大きな要素となり得ます。

今後のFC今治の活躍を大いに期待し、惜しみない声援を送り続けていきたいと思っています。

「里山スタジアム」オープニングセレモニー

 マルマルストリク.
今治・松山・宇和島・大洲・西条・四国中央・多度津

今後も民意尊重の「市民が真ん中」とい う基本姿勢で市政運営を

市長に就任されてから2年余り、1期目の折り返し点を通過しましたが、宝島社の「住みた田舎」ベストランキングにおいて、今治市が全部門制覇の1位に輝きました。この2年のまちづくりの成果だと思いますが、自らは2年余りをどう総括されますか。また、特に市民から支持、評価されたと思う取組は。

徳永 2年前、市長に就任して、いよいよ明日が初登庁という日に今治市内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生するなど、まさに、新型コロナウイルスへの対応が緊急かつ最大の課題となる中、私の任期がスタートしました。

思い返せば、市長就任1年目は、新型コロナウイルス対策に全力集中の日々でした。緊急事態宣言やワクチン接種など状況が日々変化する中で、私は、市民の皆さんの安全・安心な暮らしを守ることを

最優先に、また、事業者の皆さんが商いのできる環境を整えるため、何度も何度も軌道修正を重ね、県や今治市医師会をはじめとする関係機関の皆様の献身的なご協力もいただきながら、スピード感をもいいただきながら、スピード感をも大切に今治市として出来ることはすべて取り組むという姿勢で、厳しい局面を何とか乗り切ってきたというのが実感です。

そして就任2年目、新型コロナウイルスの感染が少し落ち着きを見せ、その対処方法についての知見も積み重なってきた状況の中、徐々にではありますがありますが世の中に新たな日常が戻ってきました。

先に述べた3年振りの「おんまぐ」を始め、様々なイベントが開催され、多くの市民や市外からの観光客で賑わったところです。また、吹き始めた新しい風をお届けするべく、東京や大阪など県外にも積極的に出掛け、今治のPRと

絆づくりにも努めてきました。

私はこうした各種イベントにおいて、子どもから高齢者まで多くの方々が集い賑わう景色を見るにつけ、交流人口を拡大し、地域の経済循環を活性化させることが、私の公約である「瀬戸内クロスポイント構想」の実現につながっていくものと確信したところです。

私が2年前の市長選挙において打ち出したマニフェストの200項目のうち、既に達成しているもの・達成に向けて着実に歩みを進めているものは合わせて34項目、率にして17%、また、一部のみ実施しているもの、実施予定のものが138項目、69%であり、達成・取組中・一部実施・実施予定をすべて合わせますと86%が公約実現に向けて動き出しています。

なお、残る28項目、14%の公約については「検討中」ですが、こちらについても、今後、社会経済情勢の変化に合わせて公約を改定するなかで「どうしたら出来るのか」という観点で再点検してみたいと考えています。

一般社団法人 愛媛県建設業協会 今治支部 今治建設業協同組合

支部長 日浅 則仁
理事長

他 会 員 組 合 員 一 同

〒794-0085 今治市いこいの丘4番地2

☎ (0898) 22-1477 FAX (0898) 24-1398

2023年版 第11回

「住みたい田舎」ベストランキング

人口10万人以上20万人未満の
ベストランキングにおいて

第1位
全4部門

総合部門	第1位
若者世代・単身者部門	第1位
子育て世代部門	第1位
シニア世代部門	第1位

今治市

この2年間、私自身は市民の皆様からいただいた負託にお応えしようと、12の地域を俯瞰し今治市全域にどのような波及効果をもたらすことが出来るのかを絶えず自問自答しながら、精一杯、市政運営に取り組んできましたが、その中で、徐々にはありますが成果も挙がってきています。

例えば、海事業業が集積する全

国の自治体の会の代表として、国会議員や関係省庁への陳情を重ね続けた結果、船舶の特別償却制度の大幅拡充など、税制改正等の要望項目がすべて認められるという画期的な成果が得られました。

また、地元の皆さんと一緒に今治西・伯方分校、今治北・大三島分校の魅力化向上に取り組み、その結果として両分校の将来への新たな道が拓かれました。

さらには、宝島社が発表する2023

年版の「住みたい田舎ベストランキング」で「子育て世代」、「シニア世代」、「若者・単身者世代」、そして「総合」の4部門で全国1位を達成するなど、移住・定住政策も一定の成果が始まっているほか、高齢者や障がい者の方々に寄り添った施策の展開、FC

今治との連携、デジタル化の加速などにも注力してきました。

一方で、新型コロナウイルスへの対応を余儀なくされる中、市民の皆さんと直接お話しさせていただく機会がまだまだ不十分であったこと、市外・県外へのトップセールスもようやく緒に就いたばかりであること、また、お約束したマニフェスト事業のすべてが実現できたわけではなく、まだまだ検討段階のものが多いことなど、反省材料、マインナ材料もあると認識しています。

市政に対する最終的な評価は、市民の皆様から頂戴するものだとは思いますが、現段階で敢えて自己評価をさせていただくとするならば、「いまだ道半ば」といったところではなかるうかと考えています。

任期4年の折り返し点が過ぎました。これからも、すべての政策は「優しさ」をベースに組み上げることが重要であるということをお肝に銘じつつ、誰のために、何のために仕事をするのかという原点

住みたい田舎ベストランキング4冠

あったか〜い、心のおつきあい。

JAおちしまばりグループ

に立ち返り、「市民が真ん中」の基本理念のもと、変化を恐れずアグレッシブに「今治の未来に新しい風を」吹かせるべく、これからの2年間で全力で駆け抜けていきたいと思えます。

2年後に迎える合併20周年に向

2023年度当初予算案には、「今治版ネウボラ拠点施設整備」に向けた基本計画策定などを計上

—— 2023年度当初予算案を市議会に上程されましたが、この本格予算の中で、特に力点を置かれた事業は。

徳永 任期2年の折り返しに当たり、改めて公約を見返す中で、今治の未来の設計図を最新のものにアップデートし、時代の変容と多様化するニーズに的確に対応していくため、2023年度当初予算(案)では、人口減少対策や地域経済の活性化をはじめとする諸課題に対し、変化を恐れずスピード感をもって果敢に挑戦する積極的な新規施策を盛り込みました。まず子育て支援分野では、現在、

けて、この今治に関わってくださる多くの方々、それぞれの想いを大切に紡ぎながら、絆という糸で人と地域が結ばれる、そのような一体感を感じることができると今治の未来を、皆様とともに創り上げたいと考えています。

小中学生までとなっている医療費無料化の対象を、18歳(高校生世代)まで拡充するほか、障害児支援、不登校対策、学習支援を推進するため、加配保育士の増員や小中学校の各種支援員の大規模な増員を予定しています。さらには、今の物価高騰により、保育所や小中学校の給食材料も影響を受けていることから、2022年度に引き続き、給食費の負担軽減に係る支援を行うこととしています。これらの総合的な支援により、子育て世帯の負担を軽減し、より一層安心して子育てができる環境が整備されるものと考えています。

また、DXの推進及び「スマートシティ今治」の推進では、「手のひら市役所」の実現を目指して、スマートフォンなどを利用したオンライン申請や相談を実施するためのシステムを導入するほか、オンライン相談やマイナンバーカード申請受付等の機能を搭載したマルチタスク車両を活用し、移動型行政サービス「移動市役所」の導入実証事業を実施する予定です。

時代の変容やDXによる行政サービスの在り方など、常に時代に即した市役所であることを目指して変わっていく必要性を感じています。

そして、産業支援、仕事支援の分野では、スタートアップ創業支援として、市内で新たに事業を開始する法人や個人事業主の方に対して、必要となる経費の一部を支援する事業、ビジネスプランコンテストの開催などを予定しています。また、学生のUターン就職を促進するための「若者人材ふるさと帰郷支援事業」やデジタル人材の育成、リスキリング支援を通じ

人、街、未来と
コンタクト

四国通建株式会社

[本社] 愛媛県今治市南大門町1丁目1番地の15 <https://www.stk.co.jp>



こどもが真ん中フェスタ

価値観や生き方の多様化により、結婚しない、子どもをつくらないという生き方を選ぶ人がいるほか、晩婚化やコロナ禍の影響など、少子化の理由は様々であると考えますが、本市では、未来を担う子どもたちを安心して産み育て

ていけるよう、妊娠、出産、子育ての各ライフステージに応じたきめ細やかで切れ目のない支援体制の整備に取り組んでいます。そうした中で、子育て世代の皆さんからは、「子どもとゆっくり過ごせる場所が欲しい」、「天候に左右されずのびのびと子どもが遊ぶことのできる場所が欲しい」といったご意見をいただいています。市内中心部に点在する子育て関連施設等の集約化を図りながら、子育て世代の親子が気軽に訪れて、ワンストップで相談や支援を受けられるとともに、安心して楽しく過ごすことのできる拠点施設の整備を検討してきました。近々、「今治版ネウボラ拠点施設整備」に関する基本構想の公表を予定していますが、少子化の流れの中で、持続可能なまちであり続けるために、子育てしやすいまち、若い世代、女性に選ばれるまちとしてのシンボルとなる拠点施設の整備に向け、新たなステージへ踏み出すための基本計画の策定に向けた予算を上程しています。

て、良質で安定的な雇用の創出と継続につながるともに、市内企業のDX推進を担う人材の育成や確保を図るための予算なども計上しています。

2023年度当初予算(案)においては、本市が持続可能な都市として発展するため、あらゆる方面からの施策を打ち出しています

るなら、それは、「今治版ネウボラ拠点施設整備」に向けた基本計画策定だと考えています。

先日、報道でもありましたが、2022年の出生数が前年比で約5%減少し、80万人割れとなる見込みで、日本全体でこれまでの想定以上のスピードで少子化が進んでいます。

本市においても、少子化、人口

減少の問題を最重要の課題と

捉え、様々な子育て支援策や

移住・定住支援策を打ち出し

ており、先に述べた「住みた

い田舎ベストランキング」の

ご評価を見ても、子育て支援

策等において、他の自治体と

比較して決して劣っているも

のでないと認識しています。

価値観や生き方の多様化に

より、結婚しない、子どもを

つくらないという生き方を選

ぶ人がいるほか、晩婚化やコ

ロナ禍の影響など、少子化の

理由は様々であると考えます

が、本市では、未来を担う子

どもたちを安心して産み育て

ていけるよう、妊娠、出産、子育ての各ライフステージに応じたきめ細やかで切れ目のない支援体制の整備に取り組んでいます。

そうした中で、子育て世代の皆

さんからは、「子どもとゆっくり

過ごせる場所が欲しい」、「天候に

左右されずのびのびと子どもが遊

ぶことのできる場所が欲しい」と

いったご意見をいただいています。

市内中心部に点在する子育て

関連施設等の集約化を図りなが

ら、子育て世代の親子が気軽に訪

れて、ワンストップで相談や支援

を受けられるとともに、安心して

楽しく過ごすことのできる拠点施

設の整備を検討してきました。

近々、「今治版ネウボラ拠点施

設整備」に関する基本構想の公表

を予定していますが、少子化の流

れの中で、持続可能なまちであり

続けるために、子育てしやすいま

ち、若い世代、女性に選ばれるま

ちとしてのシンボルとなる拠点施

設の整備に向け、新たなステージ

へ踏み出すための基本計画の策定

に向けた予算を上程しています。

おいしさは、いつも自然から。



四国乳業株式会社

愛媛県東温市南方955-1

TEL:089-966-1200

FAX:089-966-1240

<http://www.rakuren.co.jp/>



らくれん
オンラインショップ
QRコード

